

令和5年度

### 三好市立芝生小学校 「学力向上実行プラン」

#### 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学びに向かい、伝え合い高め合う授業の実践
- 自分の考えを持ち、表現できる授業の実践

#### 学力向上検討委員会構成

<b>学力向上推進員</b>	<b>委員</b>
大岩教泰	校長: 武田真二郎 教頭: 大野修司 生徒指導主任: 谷脇洋平 研修主任: 三間由美 道徳教育推進教師: 高崎まほら 体育主任: 濱口久弥 特別支援教育コーディネーター: 永山睦子

校長

武田 真二郎

#### 【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題にまじめに取り組む児童が多い。 ●基礎的・基本的な知識・技能の定着、文章を読み取る力に課題がある。	・該当学年の読み・書き・計算の知識・技能の8割程度を習得することができる。 ・既習の漢字や言葉を活用して、文章を正確に読み取ることができる。	・週に1回程度、漢字や計算の小テストを行う。 ・1授業の中に、話す、聞く、書く活動の場を設定する。	・要点にアンダーラインを引き、文章の中心を読み取る習慣をつける。 ・目標の達成に向けて引き続き週に1回程度、漢字や計算の小テストを行う。 ・わかるまでくり返し学習できる機会を朝の活動や放課後に設ける。	・週に1回程度、小テストを行うことができたが、読み・書き・計算の知識・技能は7割程度の習得状況である。 ・文章の中心を読み取る習慣をつけるまでには至らなかったが、アンダーラインを引くなどの読み取るための方策は身につつつある。	・週に1回程度の小テストは引き続き行う。 ・アンダーラインを引くなどして、文章を読み取る力を身に付けさせる。 ・朝の会や帰りの会などでスピーチをする機会を設け、話す・聞く活動を充実させる。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや思いを素直に発表する児童は多い。 ●友達の意見をしっかりと聞いて、自分の考えと比べることに課題がある	・友だちの意見を聞いて、自分の意見と同じところと違うところを考えることができる。 ・話し合い活動等を通して、課題解決する方法を考えることができる。	・ハンドサインで自分の意見を表現する機会をつくる。 ・その時間のキーワードを使って、ふり返りを書く機会をつくる。	・オープクエッションを使って、思考を深まらせる。 ・ペア活動で話す・聞く機会を増やし、友だちと意見の交流をする。	・6割以上の児童がハンドサインを使って意見を表現することができた。 ・単元の終わりに、キーワードを使ってふり返りを行った。	・1時間の授業のふり返りで、自分の考えが初めと終わりでどのように変わったのかを書き出させ、自分の意見の変容を意識させる。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の好きな分野に対しては興味関心が高く、意欲的に取り組むことができる。 ●興味のない課題には消極的になり、チャレンジ精神の低さに課題がある。	・自らの課題を把握し、計画を立てて学習を進めることができる。 ・自ら手を挙げて、思いや考えを発表することができる。	・めあてに沿ったふり返りを児童に示し、何ができた・何ができなかったかを確認する。 ・優れた自主勉ノートを掲示し、自主学習への意欲を高める。	・ふり返りを基に、次の学習への意欲が高まるようにしていく。 ・優れた自主勉ノートを印刷して配布し、児童のノートに貼らせて参考にさせる。 ・自主学習の日を月1回設け、学習への興味・関心を広げる。	・できたことをふり返る児童は多かったが、できなかったことをふり返る児童は少なかった。 ・自主勉ノートのギャラリーウォークを行ったり、教師が優れたノートを紹介したりすることで、意欲を高めることができた。	・めあてに沿って難しかったことをふり返り、次への課題を見つける機会を設ける。 ・上の学年の自主勉ノートを見る機会なども設け、意欲を高める。

#### 令和5年度 学力向上ロードマップ

